編集後記

『演劇研究』第三八号を無事お届けできるはこびとなった。この第三八号は、論考七編、資料紹介三編からなる。論考はすべて査読付論文である。『演劇研究』という誌名ではあるが、いつものように演劇（日本の古典芸能から海外の現代演劇まで）のみならず映像、舞踊に関する論考も含まれており、多彩な内容となっている。

竹本幹夫前館長を中心とする「『葛巻昌興日記』所引能楽記事稿（天和四年・貞享元年分）」と三村竹清日記研究会による「三村竹清日記　不秋草堂日歴（二十三）」は、いずれも重厚かつ貴重な研究成果であり、『演劇研究』にはもはや欠かせない連載となっている。心待ちにしてくださっている読者も多いのではないだろうか。

今回も多数の投稿があり、厳正なる査読の結果、掲載が叶わなかった論文も少なくなかった。『演劇研究』が査読体制をとるようになって五年目となり、査読付学術誌としての本誌の存在が一層浸透してきたことの表れであると自負している。また、海外からの投稿は本誌購読者の広がりを示していると言えるだろう。

査読は、演劇学・映像学・舞踊学をご専門とする学内外の一七名の先生方にご担当いただいた。教育的配慮から査読後の執筆者による修正を経て再査読をお願いする論考も多く、査読委員の先生方には多大なご負担をおかけすることになった。この場を借りて、お忙しいなか粛々と査読・再査読にご協力くださり、丁寧な講評を賜った先生方に心から御礼申し上げる。

演劇研究を志す若手が少なくなっているという話も昨今耳にするが、おかげさまで本誌への関心は年々高まっているように感じている。本誌が演劇・映像・舞踊研究の発展に僅かながらでも寄与することを願ってやまない。

（岡室美奈子）

平成二十七年三月十日　印刷
平成二十七年三月十六日　発行

演劇研究　第三十八号

編集兼発行者　岡室美奈子
印刷所　株式会社　研恒社
東京都千代田区九段北一―一―七
カーサ九段2F
発行所　早稲田大学
坪内博士記念演劇博物館